

国際物流業界トピックス

航空便の運航が可能に

■成田—サウジアラビア

国土交通省は4日、サウジアラビアの航空当局と、成田空港と同国の空港間で航空便の運航を可能にする枠組みを設定した。5日、発表した。旅客便は即日、貨物便は2025年夏季ダイヤから運航できる。両国間ではこれまで、日本側は関西、中部のみ運航が認められていた。成田は2025年3月からアラブ首長国連邦(UAE)との間でも貨物便を運航できるようになるなど、中東諸国とのネットワーク

が広がる。

成田—サウジ線は、旅客便については枠組みを設定した4日から運航が可能になった。既存の関西、中部を含め、両国の航空会社がそれぞれ週14往復ずつ運航できる。貨物便についても2025年夏季ダイヤ(3月末)から成田—サウジ線の運航が可能になり、関西、中部を含め、両国がそれぞれ7往復ずつ運航できるようになる。日本に向けては中東諸国の航空会社の就航・増便の意欲が高まっている。

両国間ではこれまで、航空協定の締結に先駆けて2006年9月にサウジアラビア航空(現社名・サウディア)が関西—リヤド・ジェッダ線をマニラ経由で週1往復、定期便を運航した実績があるが、3週間でとりやめていた。今回の結果を受け、両国間で直行便が飛べば初となる。両国間では2008年8月、航空協定が正式に結ばれ、日本側は関西、中部、サウジ側はジェッダ、リヤド、ダンマンを対象に航空便の運航が可能になったが、給油などの技術着陸を除き、これまで邦人・外航とも長期の運航実績はない。